

授業科目名	社会調査法	単位数	2
担当教員名	新角 耕司	担当形態	単独
実務内容 (実務家教員の場合)	経営コンサルタントとして各種リサーチ業務に取り組んできた。現在はコンサルタント支援組織の管理職として、新入社員に対してリサーチ技法の基礎的な考え方及びスキルを講義している。		
「学位授与の方針」との関係 本学ディプロマポリシーのA～Fすべてに関連する。			
授業の到達目標及びテーマ (1) 日常の「調べもの」と「社会調査」の共通点と相違点を理解する。 (2) 社会調査の代表的な手法および特徴とそれらの関係性を理解する。 (3) 社会調査のプロセスを理解する。 (4) 文献調査・質的調査・調査票調査の特徴と進め方を理解する。 (5) 調査結果の報告の方法を理解する。			
授業の概要 「調べる」ことは、誰もが意識せず日常的に行っている作業である。世の中で起きている出来事の実態とその背景を探っていく「社会調査」もその一つだが、そこには歴史に培われた様々な作法と技術がある。 また、「社会調査とはアンケートのこと」と思われがちだが、実際にはそのほかにも「話を聴く」「現場を観る」「資料を読む」などの多様な手法が存在し、それらを適切に組み合わせることで、より生き生きとした形で現実を切り取ることができる。 一方で、我々に与えられた時間と予算には限りがあり、必ずしもいつも理想的な条件で調査が実施できるわけではない。そのような制約を踏まえたうえで、確からしいデータを素早く集め、集めたデータから有益な意味を導き出し、その結果を分かりやすく相手に伝えるための基礎基本を、理論と実践の両面から考える。 なお本講義は、グループディスカッション等のアクティブラーニングの手法も用いて実施する。			
授業計画 第1回：はじめに 第2回：社会調査の概要①社会調査の目的 第3回：社会調査の概要②社会調査の代表的な手法 第4回：社会調査の概要③社会調査のプロセス 第5回：文献調査の方法①文献調査の特徴 第6回：文献調査の方法②様々なデータソース 第7回：質的調査の方法①質的調査の特徴 第8回：質的調査の方法②聞き取り調査の概要 第9回：質的調査の方法③観察調査の概要 第10回：調査票調査の方法①調査票調査の特徴 第11回：調査票調査の方法②調査票作成のポイント 第12回：調査票調査の方法③調査票調査に必要な統計の基礎 第13回：調査票調査の方法④調査結果の分析の基礎			

第14回：調査結果の報告の方法

第15回：まとめ

定期試験

スクーリングでの学修内容

授業のテーマに関する講義を行い、グループワーク等のアクティブラーニングの手法も用いて社会調査の企画・設計を体験する。

(主に、第2回～第14回の内容を含む。)

教科書

大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋 編著(2013)『新・社会調査へのアプローチー論理と方法』ミネルヴァ書房

参考文献

- (1) 玉野和志(2008)『実践社会調査入門ー今すぐ調査を始めたい人へ』世界思想社
- (2) 高辻成彦(2017)『アナリストが教える リサーチの教科書ー自分でできる情報収集・分析の基本』ダイヤモンド社
- (3) 岸政彦・石岡丈昇・丸山里美(2016)『質的社会調査の方法ー他者の合理性の理解 社会学』有斐閣
- (4) 酒井隆(2012)『図解 アンケート調査と統計解析がわかる本[新版]』日本能率協会マネジメントセンター

学生に対する評価

スクーリング評価(25%)、レポート評価(25%)、科目修得試験(50%)を総合して評価する。